

時を越えて糧となる：
川の機能を知り尽くした成富兵庫の“石井樋”を現代に復元



撮影：2014年12月（佐賀県・佐賀市大和町尼寺）

◆成富兵庫の治水流儀

石井樋は、佐賀城下に生活用水と農業用水を供給するため、江戸時代初めに成富兵庫茂安によりつくられました。有明海の干満差を考慮し、自然に逆らわない方法（霞堤、野越、堤防内遊水地など）を特徴としています。

石井樋の治水事業は、「洪水をして走らせず、如何にして歩かせるかにあるように思われる」（小出博著作より）と言われるように、荒籠、象の鼻、天狗の鼻、野越などで水流が制御され、“石井樋”を通ることで水量が制御されます。

岡村幸二（JRRN会員）